一般社団法人日本マススクリーニング学会　2022年度第3回理事会議事録

日時：2023年3月1日（水）17：00～19：10
会場：Web開催
議長：大浦敏博 理事長
出席：石毛信之、伊藤哲哉、大浦敏博、大竹　明、窪田　満、九曜雅子、重松陽介、田崎隆二、但馬　剛、田島敏広、中村公俊、花井潤師、濱崎考史、平原史樹、南谷幹史、山口清次（以上理事）、福士　勝、松原洋一（以上監事）、長崎啓祐（第50回学術集会長）
欠席：酒井好美（理事）

議事次第：

1. 開会の辞（大浦 理事長）

・出席者が定数を満たしたため、理事長より定時にて理事会を開催する旨挨拶があり開会した。

2. 審議事項

1）精度管理事業の引継ぎについて（大浦 理事長）

・2022年12月1日に厚生労働省子ども家庭局母子保健課から、精度管理事業を学会に移行する旨の正式な通知が発出された。
・精度管理事業は膨大な作業が発生するため、1～2 年ほどかけて学会に業務を引き継ぐ予定。そのため、令和5年度は令和4年度と同様に作業を進める。

①精度管理実施要綱の改訂

・TMS普及協会から学会に業務を移行したため、文面を一部変更した。

「5.実施体制等」について

・今まではTMS普及協会と学会との合同委員会である「NBS精度管理合同委員会」が主体となっていたが、学会に業務が移行したため、新たに「NBS精度管理委員会」として進めていくこととした。名称は今後変更する可能性あり。
・業務が膨大であるため、当面は本会が指名したTMS協会の3名の方により「NBS精度管理支援事務局」を設置して、精度管理実施支援を受けることとした。

②精度管理実施手順の改訂

・精度管理事業の実施体制は「別表1」のとおりとする。
・実施要項同様、TMS普及協会から学会に業務が移行したため、文面を一部変更した。

(1) NBS精度管理委員会

・今後、精度保証システム委員会は精度管理関連を担当する委員会とする。本委員会は、NBS精度管理委員会を管轄する委員会として、精度管理事業全般にかかること、システムソフトの開発、予算などの審議、こども家庭庁母子保健課との交渉などを担うことになる。メンバーは現行のまま継続したい旨提案があり、承認された。委員の任期や若手委員の追加などは今後の検討事項としていきたい。

(2) TMSコンサルテーションセンター

・現在のTMSコンサルテーションセンターは、医師団、技師団、事務担当というメンバーで、地方自治体、検査施設、小児科医師、産科医師などからの相談に対応し、TMS事業の円滑化に協力することを目的とし、TMS対象疾患、ガラクトース血症、およびNBSに関連する質問を受け

付け、対応している。

・令和5年度は現在のメンバーで継続していきたい旨提案があり承認された。ただし、8月の役員改選以降はメンバーの交代も検討したい。

・令和6年度以降、学会として本事業を継続していく場合、どのように進めていくかについて理事に意見を求めた。

　・学会での業務となるのであれば業務量を考えてコンサルテーションセンターの作業については縮小化してもよいのではないか。

　・学会が担当する場合、タンデムマス・スクリーニングに限定する必要があるのか。内分泌疾患も入れた方が良いのではないか。

・令和6年度以降は、名称を「新生児マススクリーニング事業（NBS事業）」に変更し、甲状腺機能低下症、副腎過形成症を項目に入れて、内分泌の先生に医師団に入っていただき、対応をしていきたいという提案がなされ、承認された。

・なお、相談の対応件数は減少傾向にあるが、TMS普及協会で作成しているQ&Aが活用されているので、是非学会でも継続して提示させていただきたい（現在は学会ホームページよりリンクあり）。

(3) タンデムマス通信

・TMS普及協会では理事長の山口先生が厚労省や自治体の方などに直接執筆を依頼して原稿を集めていた。全国ネットワーク会議の報告を中心に、一般の方も読めるような平易な言葉で書かれた楽しい冊子としている。

・今後の対応について理事に意見を求めた。

　・当初の目的は果たせたかと思うので、事務局の業務負担を考慮すると廃止ということでも良いのでなないか。

　・現在17号なので、20号で終了でも良いかもしれない。

　・患者会と厚生労働省や自治体とを繋ぐ役割はあると思う。

　・編集委員を増員して、継続してはどうか。

　・学会の編集部で担当してはどうか。

　・学会誌の編集とタンデムマス通信の編集とは作業が全く異なる。学会誌の編集作業は業務量が多いため、別のほうがよい。

・次号は山口先生にお願いし、本件については継続審議とする。編集委員の推薦があれば山口先生からご提示いただきたい。

(4) 新生児スクリーニング全国ネットワーク会議

・成育医療研究センターマス研とTMS普及協会の共催で開催していた。

・特に地域格差の解消を目的として実施していた。2月に開催した会議では自治体の方が多数参加してした。

・今後は、学会が担当することになるが、例年通り2月開催として継続したい。当面は但馬理事に担当していただくが、役員の交代もあるため、担当者を変更することも検討する。

2) マス研のLC-MS更新について（大浦 理事長）

・成育医療研究センター内で作業をしていただいているが、現在使用しているLC-MSが経年劣化している。問題が発生する前に精度管理事業の予算から新規の機器を購入（またはリース）したいという提案があり承認された。競争入札の予定。例年約600万円を精度管理事業費から成

育医療研究センターの外部委託費として支払う。機器は成育医療センターの固定資産となる。

3）令和5年度精度管理事業予算案（大浦 理事長）

・令和4年度の収支決算は2023年5月頃まで確定しないため、現時点での状況を考慮した内容で作成した令和5年度の予算案について報告があった。LC-MSを購入するための費用は十分に確保できる。

4）編集委員会関連

①転載許諾申請について（濱﨑 理事）

・アズサイエンスより本誌掲載論文をウエブサイトに公開したいとの依頼があった。本会としての規定がなかったため、転載許諾申請について編集委員会より下記の提案があり、規定並びに書式も含め承認された。

・転載許諾申請の窓口：学会事務局とする。

・著者への許諾確認：著者への許諾は承認条件とする。

・転載許諾料：学術目的の場合は無料、商用目的の場合は1件につき55,000円（税込）。

②編集部の移動について（大浦 理事長）

・現在、編集委員長は濱﨑理事、編集事務は藤本氏が担当している。大阪公立大学の雇用体制が変更となり、藤本氏の雇用が2023年9月末迄で以後の雇用継続が難しい状況であると報告があった。学会誌の発行は第3号が2024年2月のため、それまでは藤本氏に継続して担当を依頼したい。そのため、10月以降は学会から直接藤本氏に謝金を支払う。

・窪田理事から次期編集委員長に就任してもよいという意見があった。8月で役員交代もあるため、委員会体制について検討を続ける。

5）学会事務局業務委託契約書について（大浦 理事長）

・法人化したため、現行の作業を整理して委託業者との契約書を作成した旨報告がなされ承認された。

6）多胎児の甲状腺スクリーニングの再採血に関する報告（濱﨑 理事）

・大阪府の連絡会議で多胎児の甲状腺スクリーニングの再採血に関して検討をした。本会以外からは推奨が出ていないこともあり、協力が難しいという意見も出ていた。

・課題も多いが、わが国でのエビデンスを作り出す必要があるという意見があった。

7）2026年（第53回）学術集会長について（大浦 理事長）

・窪田理事から立候補の申請があり承認された。

3. 報告事項

1）第50回学術集会準備進捗状況（長崎 次期学術集会長）

日時：2023年8月25日（金）・26日（土）

会場：新潟グランドホテル

開催方法：現地開催 ＋ オンデマンド開催を予定

・50周年記念レクチャー、教育レクチャー、シンポジウム、市民公開講座などを予定している。

・広告や一般演題の募集などについて協力をいただきたい。

・共催セミナーなどを募集するにあたり、過去の共催企業一覧などがあると参考になる。そのような取りまとめをしたらどうかという提案があった。

・COI開示について、本会も検討をしたほうがよいのではという提案があった。発表時には開示

はしているが、演題登録時には特に指定はしていないので、倫理委員会で検討していただく。
・ 日本小児科学会は演題募集時に倫理とCOIについてホームページ上でアナウンスがなされている。本会は小児科学会の分科会であるので、小児科学会に準じて行うこととしたい。倫理委員会委員長と検討して決まり次第、長崎会長に報告する。

2) 選挙関連報告（南谷 理事）

・ 今年度からWEB選挙となったが、未投票の方にリマインドメールを配信するなど投票を促す努力をしたこともあり、投票率は5割を超えた。
・ 評議員選挙は終了し、A系20名、B系13名が選出された。本日、理事選挙の告示を行った。

3) 各委員会報告

①渉外広報委員会（田島 理事）

・ ホームページの更新作業を花井委員が行っていたが、今後は業者に依頼したい。費用などを検討して改めて理事会に提案する予定。

②精度保証システム委員会（重松 理事）

・ 2022年度の活動は、TMS普及協会とのNBS精度管理合同委員会で行われた。
・ 例年通り、新生児マススクリーニング精度保証 Web システムを使い外部精度管理評価を行い、また内部精度管理支援事業として全国の検査施設でのスクリーニング実施状況を調査し、対象疾患発見状況や再検査率の自己評価が行えるようになっている。
・ 本年度から、外部精度管理の中で、QC試験評価を再現性精度だけでなく全施設平均値からの±2SD以上の外れを評価項目としたが、検査施設から「これまでの精度維持管理法では対応が困難な研究的評価である」との指摘があり、委員会内で再検討した結果、この評価の導入は時期尚早との結論になり、再現性精度だけのこれまでの評価方法に戻された。
・ 今後、QC試験濾紙血測定値を国際基準に沿った方法で値付けし、検査施設に公表する体制を模索する予定である。一方、PTで問題点が指摘された某検査施設に対して現地調査と支援が必要と判断され、次年度早々に対応することが決められた。
・ 次年度からの学会新精度管理委員会では、これまで合同委員会で行ってきた事業を踏まえ、さらに精度保証・精度管理として適切な事業を検討することになった。

4) 技術部会報告（石毛 理事）

①技術部会第41回運営委員会は3月11日にオンラインで開催予定。

・ 拡大スクリーニングや郵便法改正後のアンケートに関しても報告する。

②拡大スクリーニング

・ 技術部会で検討を進めている。技術部会内のワーキンググループで作業を進めているが、今後は予算などの検討もお願いしたい。また、ワーキンググループでの作業でよいのかなども検討していただきたい。
・ 上記についてはNBS精度管理委員会に検討を依頼する。
・ PCR検査に関して費用を確認し、精度管理費用で対応できるかどうか検討したい。

③郵便法改正による影響調査

・ 運営委員会では具体的な例を提示して報告する予定。
・ 理事長より、速達などの対応に切り替えてよかった施設などは是非学会で成果を発表していただきたいという提案があった。

5）第 49 回学術集会会計報告（濱﨑 理事）

・ 学術集会の参加者は 303 名で約半数が現地参加であった。
・ 収支報告書について報告された。

6）次回理事会について（大浦 理事長）

・ 日本小児科学会が 4 月に品川で開催されるため、日程を合わせて開催する。役員の推薦などを検討するため、できる限り現地参加での開催としたい（ハイブリッド、WEB 参加も検討）。
・ 小児科医の理事以外は交通費を学会で負担する。

4. 閉会の辞（大浦 理事長）

・ 理事長より閉会の挨拶があり、理事会は終了した。

以　上

2023 年 3 月 27 日

一般社団法人　日本マススクリーニング学会

議長：大浦 敏博

議事録署名：松原 洋一

議事録署名：福士 勝